

「概算」を表す漢語について

——「約」を中心に——

曹 佳 楽

はじめに

漢語は生産性が高いのが特徴で、日常会話や新聞記事などで数多く使われている。本稿では、数量表現において、「概算」を表す「約」を中心に考察してみたいと思う。

「約」は字音語素として、意義項が多い。本稿では数量表現に関わる「約」の副詞的用法を中心に、下に来る語を明白にし、さらに、和語副詞「およそ」との類似関係をまとめる。

一、現代語「約」の意味

まず、『日本国語大辞典』（第二版）の「約」には次のように記載されている。

〔副〕 おおざっぱに目で数えたさまを表わす語。 おおよそ。 だいたい。 あらまし。 大約。

* 歩兵操典〔1928〕第三三「両足は約六十度を開きて」

次に、『新明解国語辞典』（第六版）の「約」には次のように記載されている。

〔副〕 数量について、大体その程度であるにとらえる意を表す。

* 約一時間

最後に、『類語大辞典』（大活字版）の「約」には次のように記載されている。

〔副〕 時間・数量・数値などがだいたいそのくらいである様子。

以上の辞書記述によると、現代語「約」は副詞として認められ、文における数量表現の概算を表すことが分かる。下に来る語は具体的にどのようなかを、ヨミダス歴史館2015年1月1日から2015年12月31日までの用例を抽出し、分類してみる。

二、現代語「約＋数量表現」

「約」の下に来る語は以下のように四つに分類できる。

二・一 「約＋数詞」

「約」の下に数詞しか来ない場合、その数詞は倍数か割合を表すものになる。

1. 県は2014年上半期（1～6月）に海外から県内を訪れた旅行者が4万1052人に上り、前年同期比で1万7089人増で、約1・7倍に伸びたと発表した。

この文では、すでに分かった数字があるため、量的に信用できる。数字そのものの倍数の大約を表し、「約」の指向は客観的に数字を指すことである。

2. 林業衰退の一因が、木材価格の下落だ。圧倒的な安さと流通量の外国産材にのまれ、国産材の価格は1970～80年代をピークに急落、約4分の1にまで落ち込んだ。

この文において、歴史的事実について分析するニュアンスがあるため、分数そのものを大約する。同じように、過去の事実に関わる数字を大約し、割合そのものを概算する例は、以下の二つある。

3. 県警での出動件数は昨年1年間で57件、行方不明者の捜索を目的とした出動件数の割合は約8割に上る。
4. 試算では、14年度に比べて、産油国からの輸送費や保険料を含めた原油価格が約27%下がり1バレル＝67ドルになる。

数詞で判断できる倍数・割合が下に来るほか、「半分・半数」の例もある。

5. 南相馬市の市立中学に通っていた時、原発事故が起きた。当時、MJCのメンバーは16人で、約半数が同市から避難した。
6. 「自治体の約半分が消滅する」というセンサーシヨナルな言葉だけが一人歩きを始め、各地の自治体を本当に消滅に追い込でしまわないか危惧している。

以上のように、「約＋数詞」で使われる場合、「約」の後ろにくる数詞は倍数や分数やパーセントなど、整数か端数かは問わない。副詞的用法を考えると、多くは、すでに分かった数字そのものを大約し、ニュアンスがより客観的である。

二・二 「約＋数量詞」

「約」の後ろに数量詞が来る場合、その数量詞における数詞は制限があるようである。この場合の数詞はしばしば十進法によって数えやすい数字か端数がない整数、例えば、5・10・20・100……などがくる。

7. 現地での商談にも関わり、約9万円を売り上げた。
8. 会場には、県内外で活躍する作家が制作した、大小様々な大きさや形をした羊のガラス作品約40点が並べられている。
9. 温泉旅館「吉川屋」では31日、露天風呂にリング約50個を浮かべ、入浴した客らは、湯気の間から立ち上る甘い香りを楽しんでいた。
10. 昨年、福袋として売り出したところ、約150組の応募があつた人気ツアーという。
11. 【投稿規定】 番組に関する感想や意見を約200字で。

12. 約100棟の集合住宅が立ち並び、約3万人が暮らす東京都練馬区の光が丘団地。

以上の例文で分かるように、「約＋数量詞」で使う場合、多くは過去にある事柄に関わる数量を大約するものか、数量そのものを約めるものになっている。

二・三 「約＋数量範疇」

「約」は数字をつづめるだけでなく、後に、ある数量の範囲が来ることもある。大約の数の上限と下限を表し、範囲が決まる。

13. 〈B型肝炎〉 国内の感染者は約110万～140万人。
14. 松炭で約1100～1300度に熱せられ、真っ赤になった重さ約1・5キログラムの鋼を金床（かなどこ）の上で打ち延ばす「折り返し鍛錬」を行った。

二・四 「約＋時間」

大約されるものは数字・数量のほか、時間の長さを大約するものもよく目にする。この場合、和語の「くらい」と意味はほぼ同じだが、より改まった言い方だと思う。

15. レトロな商店が立ち並ぶ練馬区栄町の「江古田市場（いちば）」が31日、約90年の歴史に幕を閉じた。

16. 1階ミュージアムショップで工作キットを購入後、2階おもちゃ工房で製作する。ジグソーパズルやコマなど16種類あり、約20分～1時間半で完成する。

以上は、後ろに来る語によって分類した「約」の使い方である。

次は、数多くの辞書で相互解釈されているように、「約」と「およそ」の相違を考察してみたい。

三、「約」と「およそ」

前の内容で述べた「約」の意味記述から見ると、「約」はよく「およそ」と解釈して、ほぼ違いがないように感じる。本稿では、「大約」を表す漢語副詞「約」と和語副詞「およそ」の相違について、簡略に考察したいと思う。

三・一 副詞である「およそ」の意味

まず、『日本国語大辞典』（第二版）の「およそ」には次のように記載されている。

「おおよそ」の変化した語

① 数量の、正確ではないがそれに近いところ。ほぼ。だいたい。
* 申楽談儀（1430） 勧進の舞台翁の事「勧進の栈敷数、をよそ六十二三間也」

② 精密さを捨てて、話を一般論にするときにいうことば。総じて。いったい。そもそも。

次に、『類語大辞典』（大活字版）には次のように記載されている。

およそ…〔副〕 おおざっぱにいえばそうである様子。

おおよそ…〔副〕 細かい部分を別にすればそう言える様子。

以上の辞書記述によると、「約」も「およそ」も「概略・大略・粗略なさま」と解釈できる。数量表現で使う場合、意味の区別をつけにくい、実際の用例から見ると些細な違いがあるように思う。

三・二 「およそ」の用例分析

本稿では、よりまとめやすいように、「およそ」の用例を分類する際、前の文における「約」の使用法を参照すると、以下のようになる。

イ 「およそ+数字」

後ろに数詞がくる場合、「約」は数字そのものを大約することを前の文で述べた。この場合、例17のように、「およそ」も使える。

17. 高齢でリタイアした農家の茶畑を引き受けた結果、宮崎さんの経営面積は12ヘクタールと、20年前のおよそ4倍に増えた。

「約」は多くの場合、すでに分かった数字そのものを大約するのに対して、「およそ」は、数字を推測して実現の可能性を想定し、表現主の判断やいい加減なニュアンスも含まれる。例18～20のように、文脈上「判明する・可能性・想定」などの口調が強い。

18. 自閉症の子どもは「怒った顔」についてのみ、自閉症でない子どもに比べて認識する早さがおよそ2割遅いことが判明した。
19. 12年度の百番街全体の売り上げ（125億円）に比べ、およそ40%増となるが、あんとこの好調さを踏まえると実現の可能性は高そうだ。

20. 全日空は新幹線開業により、羽田便の乗客がおよそ半分に

減ると想定。

ロ 「およそ+数量詞」

21. 射水市の大島店では、正月のつきたての餅に刻んで入れる昆布をはじめ、およそ100種類の商品がずらりと並んだ。
22. 同社には、木造伝統建築物の専門家はいなかった。須賀は「誰もしいなら自分が」と手を挙げて、これまでおよそ10件を手掛けた。

ハ 「およそ+時間」

23. スギヤヒノキは伐採できる大きさに育つまでに、およそ半世紀の年月がかかる。
24. 長年の働きに感謝しつつ、これからおよそ30年にわたる後半人生のあり方について、あなたの希望を話しましょう。

以上のイロハ三つの使い方では、「約」と「およそ」は言い換えられると思う。ニュアンス上では、「約」のほうがより客観的であり、「およそ」は想定するニュアンスが含まれる。使用法から見ると、両者はほぼ一致する。

また、今回の調査によって、後ろに数量表現がくるとき、「およ

そ」独自の使い方も発見した。それは、「およそ」は疑問文に使う例があるのに対して、「約」は疑問文に使う例は見当たらなかった。

二) 疑問文に使う「およそ」

25. 2013～14年の調査で埋まっている可能性があると確認されたのはおよそ何か所でしよう?

26. 世界で最初の自動販売機は、およそ2200年前に水を売っていたとされています、どこの国のものでしょう?

これらの例は文脈上、疑問表現で、確信ではない想定するニュアンスがあるため、「およそ」のほうがより自然ではないかと思う。

疑問表現では「約」が使われないのと同様に、「およそ」も使われない場合がある。それは、他の漢語接頭辞と組み合わせる場合である。

四、漢語接頭辞+「約」

今回の調査では、もともと精密さ第一の数量表現は、「約」で大よする際、よく見かける例は「全約」・「計約」・「各約」の三つである。新聞記事のデータベースを調べた結果、「全およそ」・「計およそ」・「各およそ」の用例は一例もない。

27. 佐伯市は同日から、市内の全約3万3600世帯を対象に「10年日記帳」を配布する予定だった。

28. この事案からみ、13口の銀行口座の計約8千万米ドル(96億円)を凍結した。

29. 新設の礼拝室は男女別で各約10平方メートル。

同じ語種の組み合わせはより自然であり、漢語と漢語・和語と和語と一緒に使われる方がより自然である。

おわりに

本稿では、漢語「約」を使う数量表現について考察してみた。結論を以下のようにまとめる。

まずは、数量表現で使う副詞の「約」は、それぞれ四種類のもものが下に来る。

- ① 「約」の後ろに倍数か割合がくる。この場合、後ろにくる数詞は制限なしで、整数や分数やパーセントや端数などがきても構わない。
- ② 「約」にごく普通の数量詞が付く。この場合の数詞はしばしば十進法によって数えやすい数字か端数がない整数、例えば、5・10・20・100……などがくる。
- ③ 「約」の後に、ある数量の範囲の表現が来る。大約の数の上限と

下限がある。

④「約」の後に時間名詞が来る。

次は、「約」と「およそ」を対照して、「約」の副詞的指向を考察してみた。

使用場面はほとんど区別されていないが、「約」は結果が分かっていたうえで、事実上すでに存在している数についておおよそに示す言い方であり、より客観的である。それに対して、「およそ」は判断や推測などから出発し、疑問文で「およそ+何+数量詞」の使い方がある。

また、「約」は漢語として、ほかの漢語と組み合わせることができる。そのため、「全約」か「計約」か「各約」などは例文でよく見られる。一方、「およそ」は漢語につきにくい。

最後に、「約」はある数量範囲に使う例があるのに対して、「およそ+数量範囲」の用例はまだ見当たらないため、結論付ける確信はないが、筆者の推測では、数量範囲を制限する時、数字そのものの上限と下限を付けるため、数字そのものをひきしめる「約」の方が自然ではないかと思う。

参考文献

- 坂口真理・二〇〇六・『分配を表す数量詞の日英比較』ふくろう出版
- 水野義道・一九八七・『漢語系接辞の機能』『日本語学』6(2)・60-69。
- 岩田一成・二〇一三・『日本語数量詞の諸相』くろしお出版
- 野村雅昭・一九八八・『二字熟語の構造』『日本語学』7(5)・44-55。
- 野村雅昭・一九七三・『複次結合語の構造』『国立国語研究所報告』49・72-93。
- 野村雅昭・一九七八・『接辞性字音語基の性格』『国立国語研究所報告』61・102-138。
- 山下喜代・二〇一三・『接辞性字音形態素の造語機能』『現代日本語の研究』東京堂 83-108
- 田村泰男・二〇〇五・『現代日本語の接頭辞について』『広島大学留学生センター紀要』15・25-36。
- 朝日新聞記事データベース
- <http://database.asahi.com/library2/main/top.php>、立教大学図書館
- 日本国語大辞典(第二版)データベース
- <http://japanknowledge.com/library/> 立教大学図書館
- 『新明解国語辞典』(第六版) 山田忠雄(主幹)
- 『類語大辞典』(大活字版) 柴田武・山田進
- (そう からく 大学院博士課程後期課程在学)